

第23回 千葉大学予防医学センター市民講座

「母児における化学物質の暴露調査に関して」

日時 平成28年3月27日(日)
13:30 開場 14:00 開演

場所 キャンパス・イノベーションセンター東京
1F 国際会議室 (東京都港区芝浦3-3-6)
JR 田町駅芝浦口から右方向の階段をおりてすぐ
東京工業大学附属科学技術高等学校正門のとなり

参加費 無料

定員 100名

申込方法 事前申し込み不要

プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 開会のあいさつ: 森 千里
- 14:20 「化学物質による遺伝子の変化」
羽田 明 (千葉大学大学院医学研究院 公衆衛生学 教授)
- 14:40 休憩
- 14:50 「微量 PCBs 分析法の確立と将来への発展」
江口 哲史 (千葉大学予防医学センター 特任助教)
- 15:20 「身のまわりの化学物質と使用状況～エコチル調査のデータから」
山本 緑 (千葉大学予防医学センター 特任助教)
- 15:40 質疑応答
- 15:55 閉会のあいさつ: 花里 真道

ポリ塩化ビフェニル (PCBs)、ダイオキシンをはじめとする長期残留性のある化学物質が話題に登りましたが、近年はそのような報道を耳にすることが減っています。しかし問題は無くなったわけではなく、エコチル調査などを通じて母児の化学物質曝露リスクの解明に係る研究が現在も継続しています。

今回はその中から遺伝要因と化学物質の残留性の関係や、化学物質測定手法、エコチルなど、様々な視点から母児の化学物質曝露の研究について紹介します。

主催 千葉大学予防医学センター

共催 NPO 次世代環境健康学センター

問合せ 043-226-2017(千葉大学予防医学センター)

